

平成25年度  
由利本荘市行政評価  
外部評価実施報告書

概要版

平成25年10月  
由利本荘市外部評価委員会

# 【 目 次 】

はじめに	P. 1
<b>I 外部評価の概要</b>	P. 2
1. 外部評価の実施方針	P. 2
2. 平成25年度外部評価委員会における評価方法の見直し	P. 2
3. 外部評価委員	P. 4
4. 外部評価委員会の開催経過	P. 4
5. 平成25年度評価対象事業	P. 5
6. 由利本荘市の行政評価システム	P. 6
7. 外部評価の進め方	P. 7
(1) 現地調査	P. 7
(2) ヒアリング調査	P. 8
<b>II 外部評価の結果</b>	P. 9
1. 平成25年度由利本荘市行政評価結果	P. 9
2. 評価対象事業の評価結果	P. 10
(1) 住民自治活動支援交付金事業	P. 10
(2) 産学共同研究開発助成事業【住民生活に光をそそぐ交付金基金事業】	P. 11
(3) 観光誘客促進事業【定住自立圏構想推進事業】	P. 12
(4) 猿倉温泉3号井ガス生産施設建設事業	P. 13
(5) 安全安心対策緊急総合支援事業（公園長寿命化）	P. 14
(6) 地籍調査事業	P. 15
(7) 地域おこし協力隊設置事業	P. 16
(8) 地域活動支援センター事業	P. 17
(9) 国療跡地利活用事業	P. 18
(10) 岩城・松ヶ崎地域統合小学校建設事業	P. 19
(11) 文化交流館自主事業	P. 20
(12) 社会資本整備総合交付金事業（橋梁新設）	P. 21
<b>III 総括及び提言</b>	P. 22
1. 平成25年度外部評価作業を実施した所感	P. 22
2. 行政評価システム等について改善・工夫が必要な事柄	P. 25

はじめに

由利本荘市では、平成18年度から行政による内部（自己）評価の取り組みが進められている。さらに、内部評価が市民の目線に立って行われているかを検証するため、評価の客観性と信頼性の確保を目的として、平成22年度に専門委員4名と市民委員4名の8名で構成する外部評価委員会を設置した。さらに平成23年度には公募委員2名を増員し、外部（第三者）評価の取り組みが進められている。

外部評価を導入して4年目となる本年度は、10名の委員を5名ずつの2班とした編制で外部評価を実施した。

評価対象事業は、由利本荘市で平成24年度に実施された重点施策（主要事業等）のうち、市の裁量の余地がないもの等を除いた全131事業の中から、12事業（ハード事業5件、ソフト事業7件）を外部評価委員会を選定した。

本報告書は、以上の12事業を対象に市が実施した内部評価の結果と、外部評価委員会が実施した評価の結果をまとめたものである。

行政評価は、各自治体において様々な方法で取り組まれているが、その方法については行政評価を実施していく過程において試行錯誤が繰り返されている状況にある。本市においても、昨年度の外部評価委員会で提言された評価の実施方法等に関する意見を参考にしながら評価方法に修正を加えて実施したところである。その一方で、昨年度までと同様に、現地調査や事業担当課へのヒアリングを実施し、委員会での慎重な審議に努めている。

今後、本報告書がより良い市政の実現に役立つことを期待するものである。

平成25年10月 由利本荘市外部評価委員会

# I 外部評価の概要

## 1. 外部評価の実施方針

行政評価を実施するにあたり、行政内部の「自己評価」は一定の限界を有している。そこで、行政評価のプロセスに市民等の参加機会（第三者の視点）を確保することにより、内部評価の透明性・客観性の向上を図ることを目的として、外部評価委員会による事務事業評価を実施することとした。

平成25年度外部評価では、平成24年度に市が実施した事務事業の中から外部評価委員会が評価対象事業を選定し、市が評価対象事業の内部評価を実施した後、外部評価委員会は内部評価結果を受けて事務事業の今後の方向性に関する提言や改善提案を行うこととした。また、平成24年度に引き続き、外部評価制度の実施方法等に関する提言も行うこととした。

## 2. 平成25年度外部評価委員会における評価方法の見直し

平成25年度外部評価委員会では昨年度の反省を踏まえ、評価方法の見直しを行った。

平成24年度は、一つの事業を評価するにあたり、各委員が①必要性、②有効性、③効率性、④公平性の4項目について4点満点で評価し、平均点の端数を四捨五入した後、合計を評価点数にしていた。評価を担当した外部評価委員からは、結果として評価が高くなった例が少なくなかったとの反省があった。

そのため、平成25年度は、評価点数を小数第一位まで求めることにし、各委員の評価が評価点数に表れやすくなるようにした。

### 【第1回外部評価委員会の様子】



# 由利本荘市の事業評価基準表

項目名	評 価 基 準					評価時のポイント (評価の際に何を判断材料とするか)
	評点	低い	← 改善の必要性 →	高い		
	評価項目の視点	4点	3点	2点	1点	
①必要性	この事業の目的や内容は、市民ニーズや社会情勢の変化に対応しているか。	十分に対応している	かなり対応している	対応している	対応していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施の緊急性の有無</li> <li>・ 税金を投入する必要性の有無</li> <li>・ 事業の民間（企業、NPO、自治会等）移管の可能性の有無</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
②有効性	この事業は、市が抱えている課題を解決するための手段として機能しているか、または、機能すると考えられるか。	十分に機能している（十分機能すると考えられる）	かなり機能している（かなり機能すると考えられる）	機能している（機能すると考えられる）	機能していない（機能しないと考えられる）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去に実施された同じ事業や類似事業との成果比較</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
③効率性	この事業は、他自治体や本市における類似事業と比べて効率的に実施されているか。	十分効率的に実施されている	かなり効率的に実施されている	効率的に実施されている	効率的には実施されていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 費用対効果（他自治体や本市における類似事業との比較）</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
④公平性	この事業の目的や内容は、受益者が少数または特定の市民・団体等に限定されていないか。	限定されていない（広くサービス供給されている）	あまり限定されていない	かなり限定されている	限定されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非合理的な事業目的、事業実施根拠、事業内容による受益者限定の有無</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
基本的なスタンス	達成率	81%以上	80%～71%	70%～61%	60%以下	評価にあたって 数字的な目安となるもの
	考え方	目的が十分に達成されている	目的がかなり達成されている	目的があまり達成されていない	目的が達成されていない	

◎評点の合計により下記の評価とする。

評 価	A：16点 ～ 14点	← 計画通りに達成できた。
	B：14点未満～ 11点	← おおよそ計画どおりに達成できた。
	C：11点未満～ 8点	← 見直しの検討を要する。
	D： 8点未満～ 4点	← 大幅な見直しを要する。

### 3. 外部評価委員

委員会は、専門家委員4名、市民委員4名、公募委員2名の下記10名で構成された。

なお、専門家委員及び市民委員の任期は平成26年3月31日まで、公募委員の任期は平成27年3月31日までである。

		氏名	所属・役職等	
専	委員長	谷内宏行	秋田県立大学システム科学技術学部 教授	留任
専	副委員長	山口邦雄	秋田県立大学システム科学技術学部 准教授	留任
専	委員	佐藤俊一	秋田しんせい農業協同組合 常勤監事	留任
専	委員	細矢育夫	株式会社三栄機械 代表取締役会長	留任
市	委員	松田訓	前・鳥海地域協議会 会長	留任
市	委員	田口正夫	由利本荘市社会福祉協議会 評議員	留任
市	委員	吉田朋子	由利本荘市商工会 女性部長	留任
市	委員	伊藤敏彦	NPO西滝沢子ども水辺協議会 事務局長	留任
公	委員	鎌田鈴夫		再任
公	委員	成田弘美		新任

※専＝専門家委員、市＝市民委員、公＝公募委員  
吉田朋子委員は10月31日付で委員を辞職されました

### 4. 外部評価委員会の開催経過

	開催日	主な内容
第1回	7月11日	・平成25年度外部評価の実施方針の確認 ・評価対象事業の選定
第2回	9月5日	・2班体制で現地視察調査（7箇所） （事業担当課が現地で事業内容を説明）
第3回	9月12日	・2班体制で各2事業（計4事業）の評価を実施 （事業担当課及び内部評価担当者ヒアリング）
第4回	9月19日	・2班体制で各2事業（計4事業）の評価を実施 （事業担当課及び内部評価担当者ヒアリング）
第5回	9月26日	・2班体制で各2事業（計4事業）の評価を実施 （事業担当課及び内部評価担当者ヒアリング）
第6回	10月25日	・外部評価結果の内容確認・協議 ・外部評価報告書（案）の内容確認・協議

※第1回及び第3回～第5回は本荘由利広域行政センター学習ホールで開催  
第2回は由利本荘市役所に集合後、2班に分かれて現地視察調査を実施  
第6回は本荘由利広域行政センター第4会議室で開催

## 5. 平成25年度評価対象事業

平成24年度に実施された重点施策（主要事業等）全131事業のうち、委員の関心が高かった12事業（ハード事業5件・ソフト事業7件）を選定した。

### 〔ハード事業〕

事業No.	事業名	担当課	評価担当
Ⅱ-033	猿倉温泉3号井ガス生産施設建設事業	観光文化振興課	A班
Ⅳ-004	安全安心対策緊急総合支援事業（公園長寿命化）	都市計画課	A班
Ⅴ-004	岩城・松ヶ崎地域統合小学校建設事業	教育総務課	B班
Ⅵ-019	社会資本整備総合交付金事業（橋梁新設）	建設管理課	B班
Ⅶ-003	地籍調査事業	税務課	A班

### 〔ソフト事業〕

事業No.	事業名	担当課	評価担当
Ⅰ-002	住民自治活動支援交付金事業	地域おこし課	A班
Ⅱ-014	地域おこし協力隊設置事業	地域おこし課	B班
Ⅱ-019	産学共同研究開発助成事業 【住民生活に光をそそぐ交付金基金事業】	商工振興課	A班
Ⅱ-030	観光誘客促進事業 【定住自立圏構想推進事業】	観光文化振興課	A班
Ⅲ-009	地域活動支援センター事業	福祉支援課	B班
Ⅴ-001	国療跡地利活用事業	総合政策課	B班
Ⅴ-012	文化交流館自主事業	カダーレ管理課	B班

なお、慎重な評価を期するため、委員会を2班に分け、下記の各5名の委員によりA班及びB班を設置し、評価に要する十分な時間と委員の発言機会の確保に努めた。

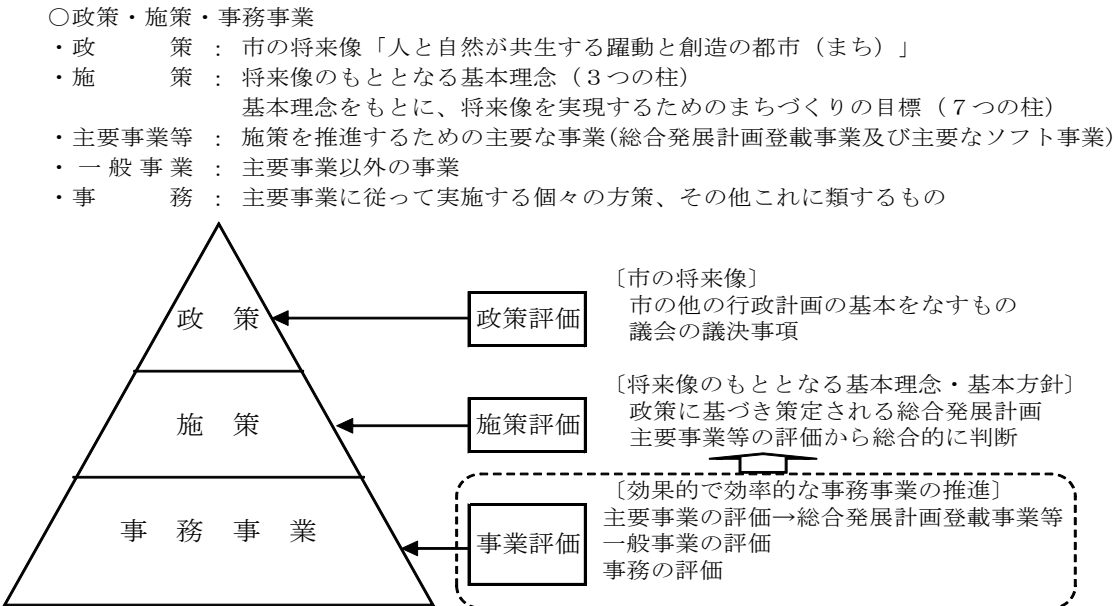
A班 … 谷内委員長、佐藤委員、松田委員、田口委員、成田委員

B班 … 山口副委員長、細矢委員、吉田委員、伊藤委員、鎌田委員

## 6. 由利本荘市の行政評価システム

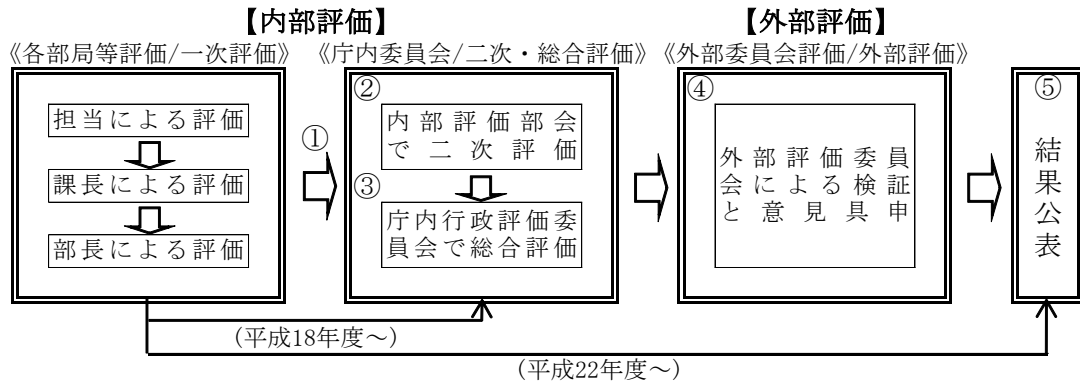
本市の行政評価システムは、図－1に示すように、政策に対する政策評価、施策に対する施策評価、そして事務事業に対する事業評価で構成されている。本報告書は、これらの3段階の評価のうち、事業評価を実施した結果についてまとめたものである。

〔図－1〕 基本的な考え方（総合発展計画を基本として）



事業評価は、図－2に示すように、内部評価（平成18年度から実施）と外部評価（平成22年度から実施）から構成されている。内部評価では、各部局等による一次評価、内部評価部会による二次評価、各部長級職員により構成される庁内行政評価委員会による総合評価が実施される。

〔図－2〕 事業評価の考え方



- ① 各部局等では主要事業について評価し、結果を提出する。
- ② 内部評価部会では、一次評価結果を受けて検討し、二次評価を行う。
- ③ 庁内行政評価委員会では、二次評価結果を受けて検討し、総合評価を行う。
- ④ 外部評価委員会では、総合評価の結果を検証し、意見等を付して報告する。
- ⑤ 総合評価及び外部評価の結果を公表する。



【第1回内部評価部会の様子】



7. 外部評価の進め方

(1) 現地視察調査

第2回外部評価委員会では、外部評価委員を5名ずつの2班に分け、現地視察調査を行った。調査先等は以下のとおりである。

〔A班〕

事業名	調査先
猿倉温泉3号井ガス生産施設建設事業	猿倉温泉3号井ガス生産施設建設現場
安全安心対策緊急総合支援事業 (公園長寿命化)	水林競技場周辺
地籍調査事業	滝ノ沢 (旧本荘地域)

〔B班〕

事業名	調査先
岩城・松ヶ崎地域統合小学校建設事業	岩城・松ヶ崎地域統合小学校建設現場
社会資本整備総合交付金事業 (橋梁新設)	由利橋
地域おこし協力隊設置事業	岩城道の駅
国療跡地利活用事業	国療跡地

## 【第2回外部評価委員会の様子】



### (2) ヒアリング調査

第3回から第5回の外部評価委員会では、外部評価委員を5名ずつの2班に分け、各班の評価対象事業を6事業ずつとして評価を行った。

#### (1) 事業内容・一次評価説明

事業担当課が事業内容や一次評価結果などについて説明する。



#### (2) 二次評価・総合評価説明

内部評価部会の担当者が二次・総合評価などについて説明する。



#### (3) 質疑

委員の質問・意見に事業担当課や内部評価部会の担当者が応答する。



#### (4) 外部評価協議・まとめ

班内で意見交換を行い、各委員の意見を集約して班の評価をまとめる。

## II 外部評価の結果

### 1. 平成25年度 由利本荘市行政評価結果

平成24年度に市が実施した131事業の中から外部評価委員会が選定した12事業を評価した。

由利本荘市重点施策

- I 地域に開かれた住民自治のまちづくり
- II 活力とにぎわいのあるまちづくり
- III 健やかさとやさしさあふれる健康福祉のまちづくり
- IV 恵まれた自然とやすらぎのある環境共生のまちづくり
- V 豊かな心と文化を育むまちづくり
- VI 心ふれあう情報と交流のまちづくり
- VII 行財政改革による健全なまちづくり
- VIII その他

必要性・有効性・効率性・公平性（各4点満点）の合計により下記の評価とした。

- A：16点 ～14点 ← 計画どおりに達成できた。
- B：14点未満～11点 ← おおよそ計画どおりに達成できた。
- C：11点未満～8点 ← 見直しの検討を要する。
- D：8点未満～4点 ← 大幅な見直しを要する。

#### A班

事業No.	主要事業名（名称）	内 部 評 価						外部評価	
		一次評価		二次評価		総合評価		点数	結果
		点数	結果	点数	結果	点数	結果	点数	結果
I-002	住民自治活動支援交付金事業	15	A	15	A	15	A	12.8	B
II-019	産学共同研究開発助成事業 【住民生活に光をそそぐ交付金基金事業】	16	A	15	A	16	A	14.6	A
II-030	観光誘客促進事業 【定住自立圏構想推進事業】	14	A	14	A	14	A	11.6	B
II-033	猿倉温泉3号井ガス生産施設建設事業	16	A	14	A	15	A	13.8	B
IV-004	安全安心対策緊急総合支援(公園長寿命化)	14	A	14	A	14	A	12.7	B
VII-003	地籍調査事業	14	A	14	A	15	A	13.0	B

#### B班

事業No.	主要事業名（名称）	内 部 評 価						外部評価	
		一次評価		二次評価		総合評価		点数	結果
		点数	結果	点数	結果	点数	結果	点数	結果
II-014	地域おこし協力隊設置事業	15	A	15	A	15	A	9.8	C
III-009	地域活動支援センター事業	16	A	16	A	16	A	14.1	A
V-001	国療跡地利活用事業	16	A	16	A	16	A	15.2	A
V-004	岩城・松ヶ崎地域統合小学校建設事業	15	A	15	A	16	A	14.4	A
V-012	文化交流館自主事業	15	A	15	A	15	A	13.4	B
VI-019	社会資本整備総合交付金事業(橋梁新設)	16	A	14	A	15	A	13.8	B

## 2. 評価対象事業の外部評価結果

### (1) 住民自治活動支援交付金事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	1-002	事業名	住民自治活動支援交付金事業
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	・地域コミュニティのために継続事業として認めるべきである。	班の評価点 <b>3.5</b>
	有効性	・交付金の有効性は否定しないが、お金を配布するだけでは目的の達成が難しいと感じる。	班の評価点 <b>3.0</b>
	効率性	・一町内あたりの交付額が少額なため効果が見えてこない。	班の評価点 <b>3.0</b>
	公平性	・交付を受けていない町内会もある。	班の評価点 <b>3.3</b>
総 合 評 価	・各町内会に定着した事業で必要性はあるがマンネリ化しているとも思える。 ・金額も大きくないし、無くなった場合でも町内会では事業を継続できるのではないか。 ・一定の効果があるものとして評価できるが、交付金を配布するだけでなく、地域の防災、子育て、安全、ゴミ捨て、すべてについて盛り上げていくために、地域おこし課には町内会と行政の窓口になるよう課名に則した役割を期待したい。 ・コミュニティに元気が無くなっているように感じる。行政側から活性化を仕掛ける必要があると思う。		班の合計点 <b>12.8</b>
			班の評価 <b>B</b>

#### 良かった点、改善点等の提案

良 か っ た 点	
改 善 点	・事業目的の「地域住民が主体的に自治活動に取り組み、地域コミュニティの強化が図られること」を達成するためには、交付金の交付だけでは十分でない。担当課には町内会の要望や課題解決のための縦割りではない横断的な相談窓口としての機能強化を期待する。

(2) 産学共同研究開発助成事業【住民生活に光をそそぐ交付金基金事業】

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	II-019	事業名	産学共同研究開発助成事業 【住民生活に光をそそぐ交付金基金事業】	
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	・内部評価は妥当である。		班の評価点  4.0
	有効性	・内部評価は妥当である。 ・助成を受けている各企業の取り組みにより成果があったことは良いと思う。		班の評価点  4.0
	効率性	・効率的に実施されているが、助成の対象となった企業が比較的体力があるところだったように感じる。		班の評価点  3.3
	公平性	・零細企業への助成の実績がなかったのが残念。		班の評価点  3.3
総 合 評 価	・必要性、有効性は十分である。必要性、効率性も目的が達成できているが、零細企業から応募が集まるような工夫があればもっと良かった。 ・個人の起業者への支援施策と併せて、より効果的な事業実施に取り組むことができたならもっと良かった。			班の合計点  14.6
				班の評価
				A

良かった点、改善点等の提案

良 か っ た 点	・良い事業であり、継続実施してほしい。
改 善 点	・零細企業からも助成の申請がくるような工夫がほしい。 ・平成25年度の申請企業がない状況であり、事業のあり方を検討してほしい。ニーズの掘り起こしにさらに努力してほしい。

(3) 観光誘客促進事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	II-030	事業名	観光誘客促進事業
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災後の観光客の落ち込みを回復するために必要な事業である。</li> <li>誘客のための日常的な営みをより高めるために必要な事業である。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.5</b>
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市全体の観光振興の戦略の見直しが必要である。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.8</b>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本戦略に従い、県や他団体との連携強化と役割分担を効率的にする必要がある。</li> <li>市の観光振興計画を作り直す必要がある。</li> <li>アピール力の不足を感じる。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.5</b>
	公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアからの訪日推進補助金にどのくらい効果があったのか疑問がある。補助金がなかった場合の影響を検証する必要がある。</li> <li>海外、県外からの誘客も必要だが、由利本荘市民自ら観光客として楽しめる（受益者となる）事業展開があったら良い。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.8</b>
総 合 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>誘客を図るには誰を呼びこむかの前に、観光振興全体の基本戦略を立てる必要がある。何処を見せるのか、何を見せるのか、何処に泊まるのか、お客さんは何を求めているのか、どんなサービスを提供できるかが重要である。</li> <li>結果を出すのが難しいことは理解できる。一過性のものではなく、長期を見込んだ計画の策定が必要である。</li> <li>各種団体、機関との連携を強化すべき。それに伴い観光業者、市職員、伝統芸能継承団体等、市民全体の意識改革も必要である。</li> <li>鳥海山を核にした観光振興は、範囲が広く、また季節毎に異なる見所が多いので、区分けして誘客を図ることも必要である。</li> </ul>		班の合計点  <b>11.6</b>
			班の評価  <b>B</b>

良かった点、改善点等の提案

良 か っ た 点	
改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業効果の検証の仕組みと体制を整える必要がある。</li> <li>誘客促進をはかるには一部が突出していてもよくない。観光は総合力である。観光文化振興課全体で取り組んでほしい。</li> </ul>

(4) 猿倉温泉3号井ガス生産施設建設事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	II-033	事業名	猿倉温泉3号井ガス生産施設建設事業
各項目による評価	必要性	・天然資源（ガス、地熱）を有効活用することは必要である。	班の評価点 <b>4.0</b>
	有効性	・鳥海荘、フォレスト鳥海の経営安定と地域の観光振興には有効である。	班の評価点 <b>3.8</b>
	効率性	・公費を投入して建設した設備なのに供給先から回収がないので、市にとっての費用対効果が明確でない。 ・内部評価では他の自治体の類似事業との比較評価をするべきである。 ・事業効果の根拠が数値として示されず、約3年で投資額の回収が可能と考える根拠がよく分からなかった。	班の評価点 <b>2.8</b>
	公平性	・事業の成果を地域住民に還元できたら更によかった。	班の評価点 <b>3.2</b>
総合評価	・天然資源の有効活用、二酸化炭素削減の目的から必要性は内部評価が妥当である。 ・地域の観光振興にとっては良い事業である。 ・地域住民の入浴料を無償にする等、住民サービスとしてこの事業による恩恵を還元する方法があればよかった。 ・効率性の説明で根拠を具体的な数値にして示してほしかった。内容が専門的な部分もあり評価が難しかった。		班の合計点 <b>13.8</b>
			班の評価 <b>B</b>

良かった点、改善点等の提案

良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然ガスの有効利用は今後も継続すべきである。</li> <li>・内容の精査により当初予算額よりも決算額が少なくなったことは評価できる。</li> <li>・コージェネは灯油と比較して設備の寿命も長く、ガスは熱量も高いのでエネルギーの有効活用として評価できる。</li> </ul>
改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民サービスの形で還元を検討してもらいたい。</li> </ul>

(5) 安全安心対策緊急総合支援事業（公園長寿命化）

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	IV-004	事業名	安全安心対策緊急総合支援事業（公園長寿命化）		
各項目による評価	必要性	・ 事故防止のために必要な事業である。	<table border="1"> <tr><td>班の評価点</td></tr> <tr><td>3.7</td></tr> </table>	班の評価点	3.7
	班の評価点				
	3.7				
	有効性	・ 内部評価は妥当である。	<table border="1"> <tr><td>班の評価点</td></tr> <tr><td>3.0</td></tr> </table>	班の評価点	3.0
班の評価点					
3.0					
効率性	・ 内部評価は妥当である。	<table border="1"> <tr><td>班の評価点</td></tr> <tr><td>3.0</td></tr> </table>	班の評価点	3.0	
班の評価点					
3.0					
公平性	・ 優先順位を決定する際、公平性の確保をどのようにして担保するかが大切である。	<table border="1"> <tr><td>班の評価点</td></tr> <tr><td>3.0</td></tr> </table>	班の評価点	3.0	
班の評価点					
3.0					
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バリアフリー化も大切であるが、老朽化による危険度の調査結果に基づき、優先順位を決定して事業を実施するべきである。バリアフリー化については長期的視点で別事業として行うべきだと思う。</li> <li>・ 利用者が多く集まる公園になるよう他課との連携による工夫があったらよい。整備しても利用されなければ必要性が薄くなる。</li> <li>・ 公園管理をお願いしている町内会からの要望には、町内会に関する事務を行っている地域おこし課と連携して対応してもらいたい。</li> </ul>		<table border="1"> <tr><td>班の合計点</td></tr> <tr><td>12.7</td></tr> </table>	班の合計点	12.7
	班の合計点				
	12.7				
		<table border="1"> <tr><td>班の評価</td></tr> <tr><td>B</td></tr> </table>	班の評価	B	
班の評価					
B					

良かった点、改善点等の提案

良かった点	
改善点	・ 安価な工法の採用等による工費の節約をする工夫がほしい。



(6) 地籍調査事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	VII-003	事業名	地籍調査事業	
各項目による評価	必要性	・必要性は十分である。内部評価は妥当である。		班の評価点 <b>4.0</b>
	有効性	・固定資産税の適正課税のために有効である。		班の評価点 <b>3.6</b>
	効率性	・完了までの見込期間が長すぎる。期間短縮のためにもっと知恵を絞るべきである。人員の調整や民間業者の活用など方法はあると思う。 ・本荘地域の進捗状況が良くない。もっと早く事業に着手すべきであった。		班の評価点 <b>2.6</b>
	公平性	・事業にかかる期間が長くなるほど、完了した地域と未完了の地域との公平性が低くなる。全市の事業完了を急ぐべきである。 ・進捗の遅い本荘地域を重点的に進めるべきと思う。 ・固定資産税の課税を考えると地域ごとに不公平が生じている。		班の評価点 <b>2.8</b>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全市の事業完了を急ぐべきである。</li> <li>・業務の民間委託が必要である。完了まで30年以上かかる見込みでは時間がかかりすぎる。</li> <li>・進捗進度を高める意欲が感じられない。民間委託すると人件費分は補助金の対象外で経費がかかり増しになるという説明であったが、市職員にも人件費が支払われているのだから、作業効率と費用対効果を総合的に考慮してどうすべきか判断してほしい。</li> <li>・進捗状況が良くないのは、旧各市町の事業着手時期や意欲、国、県の補助金の圧縮等、現担当者の責めによらない要素もあることは理解できる。</li> </ul>			班の合計点 <b>13.0</b>
				班の評価 <b>B</b>

良かった点、改善点等の提案

良かった点	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市職員にも人件費が支払われていることを考慮のうえ、民間業者への委託を検討すべきである。</li> <li>・市職員を多能工化して多くの職員が対応できるようにすることも検討が必要である。</li> <li>・世代交代により土地の状況、事情がわからなくおそれがあるので急ぐ必要がある。</li> </ul>

(7) 地域おこし協力隊設置事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	II-014	事業名	地域おこし協力隊設置事業
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部からの刺激は必要。また、地元で見落としがちとなるものに対し、協力隊員が指摘することも必要。</li> <li>市として当然最重要の課題である地域おこしを、外から来た人に気づかさなければやれないとは、どうしたことかと思う。</li> <li>3年はかわいそう。地域に住んでほしい。</li> <li>大規模な行政での導入は不向きな事業であり、広く浅くではカンフル剤の効果しかない。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.5</b>
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>隊員がいなくなった際の地元の主体形成の達成度が不明。</li> <li>市職員はもとより、市民が今後どれ程この協力隊員の示してくれたことを活かしていけるか気になる。</li> <li>斬新な考え方はできないものか。</li> <li>あまりにも広範囲で有効な事業となっていない。隊員がいなくなったら消滅では困る。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.3</b>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら新たな展開をしたいと思っている人材と、安い人件費がうまくマッチしている。しかし、もう少し3ヶ年の計画性がほしい。</li> <li>より多くを期待したいが、人数からして、そこそこか考える。</li> <li>住民との交流ができているのか。</li> <li>少ない予算での事業は評価するが、バラマキ的側面があり、いくら特別交付税でも効率的ではない。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.5</b>
	公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市全体への効果を考えるとき、公平性が十分かどうかと思う。</li> <li>もっと広い視野で、情報発信をしてほしい。</li> <li>一見、全市内で事業は行われているが、手挙げ方式であり、真に必要な所の事業ではない。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.5</b>
総 合 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきり言って、地元で根ざしてくれないのならいらんと思う。由利本荘市に住みたい人に隊員になってほしい。</li> <li>全体的にはいくつかの事業を立ち上げて、一定の効果を上げているが、目的としている「交流人口の拡大」、「特産品の振興・拡大」には結びついていない。</li> </ul>		班の合計点  <b>9.8</b>
			班の評価
			<b>C</b>

良かった点、改善点等の提案

良 か っ た 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハムフライバーガーは成功だと思う。</li> </ul>
改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・達成目標を設定のうえ、第2次の事業に進むことを願う。</li> <li>・情報発信をしてほしい。</li> <li>・集中してやってほしい。5名でなく2名にして行えば、費用改善になり、給与も倍になるのではないか。</li> <li>・任期が満了になったら、1～2人に絞り地元の人を採用すべきである。事業を徹底的に絞り集中して、目的に合った事業に取り組むべきである。もっと都会の人を呼ぶ大量ツアーや農家民宿等に力を入れるべきである。</li> </ul>

(8) 地域活動支援センター事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	III-009	事業名	地域活動支援センター事業
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かな福祉サービス事業として必要性は高い。</li> <li>障がい者支援は重要である。</li> <li>一次、二次評価は妥当である。</li> <li>法で必須事業となっており必要な事業である。</li> </ul>	班の評価点  <b>4.0</b>
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔軟な制度・対応がされており有効性は高い。</li> <li>客観的データが示されていない。</li> <li>この事業によって支援を受けられる人、受けられない人が分からない。</li> <li>市内の現状から見て妥当である。</li> <li>障がい者及び家庭の支援にとって有効である。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.5</b>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPOへの委託など、市民組織とも連携しており効率性は高い。</li> <li>現時点では効率性はあると考える。</li> <li>一次、二次評価は妥当である。</li> <li>ほとんどが委託料であり、査定は行われているが、真に効率的であるとは言い難い。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.8</b>
	公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>受益者がかなり限定されていると思われる。(かくれ障がい者の把握)</li> <li>二次評価を妥当とする。</li> <li>市の中心部に事業所が手中しており、地域にも事業所が必要である。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.8</b>
総 合 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、事業展開を望む。</li> <li>課題はある。</li> <li>施設を市内どの地域でも利用しやすくする努力が必要と思う。</li> <li>法で決めている事業であり、実施もされているが、課題も若干あり、一次、二次、総合評価が全て16点は疑問が残る。</li> </ul>		班の合計点  <b>14.1</b>
			班の評価  <b>A</b>

良かった点、改善点等の提案

良かった点	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域的な面でまだ手の届きにくいと言う実体があり、今後の改善または強化が必要である。</li> </ul>

(9) 国療跡地利活用事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	V-001	事業名	国療跡地利活用事業
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックコメントに対する回答に、「検討します」という表現が残っており、結論を見出していない。</li> <li>広大な土地利用をどうするのかとの観点から、将来に向けて様々な課題があるように思う。</li> <li>スポーツ交流機能および防災機能を合わせたアリーナは必要である。コンベンション機能も必要性は高い。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.8</b>
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺への波及効果を活かす議論が少なかった印象を受けた。</li> <li>パブリックコメントで出された意見の取り扱い結果について、継続的に周知する必要がある。</li> <li>委員会での意見が十分反映されなかったとの声を聞いた。</li> <li>様々な案件をクリアしながらの本事業は、取りあえず有効と考える。</li> <li>市では大きな大会、会議等の場所がないため有効である。防災の基点としての有効性は高い。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.8</b>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>こうした場合、市民意見を引き出すワークショップ等の専門家の登用が、効果・効率の点で必要である。</li> <li>総合評価は妥当である。</li> <li>検討委員会の開催、パブリックコメントの実施等を行っており、効率的である。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.8</b>
	公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>全市民という点で、周辺への波及効果と遠隔地の人たちの利活用がどこまで検討に入ったのかが心配である。</li> <li>全市民を対象としており公平である。委員の選定も公平である。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.8</b>
総 合 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も引き続き、透明性のある事業となるようにしてもらいたい。</li> <li>現施設との利用調整を行ってほしい。</li> </ul>		班の合計点  <b>15.2</b>
			班の評価
			<b>A</b>

良かった点、改善点等の提案

良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>広大な土地の活用に動き出したことは良いことである。</li> </ul>
改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象の捉え方が委員間で異なっていた。こうした事業の評価では、分かりやすい説明、誤解の生じない説明が必要である。</li> </ul>

(10) 岩城・松ヶ崎地域統合小学校建設事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	V-004	事業名	岩城・松ヶ崎地域統合小学校建設事業	
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次、二次評価は適正である。</li> <li>・少子化が進行しているため、統合はやむを得ないと考える。</li> <li>・市民ニーズや社会情勢に対応している。</li> </ul>	班の評価点	3.8
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次、二次評価は適正である。</li> <li>・通学路に歩道を設置することは安全性の面では有効と考えるが、冬期間の地吹雪が心配である。</li> <li>・耐震性、複式学級解消の面からも有効である。</li> </ul>	班の評価点	3.5
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地決定までの調査が不足している。</li> <li>・適当な場所だと思わない。田んぼに建てるのは費用がかかる。</li> <li>・取得用地の効率利用、建設単価面からも効率的である。</li> </ul>	班の評価点	3.3
	公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次、二次評価は適正である。</li> <li>・話し合いのもとで決定したのだから公平性はあるが、外部の人を入れての話し合いもしてほしかった。</li> <li>・旧行政区を越えた統合小学校であるが、場所的な面から公平である。</li> </ul>	班の評価点	3.8
総 合 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松ヶ崎小学校の有効活用を望む。</li> </ul>		班の合計点	14.4
			班の評価	A

良かった点、改善点等の提案

良かった点	
改善点	

(11) 文化交流館自主事業

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	V-012	事業名	文化交流館自主事業
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ニーズがきちんとリサーチされているとは思えない。</li> <li>一次、二次評価は妥当である。</li> <li>自主事業に対する市民ニーズは高い。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.7</b>
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート評価を実施しているとのことだが、数値（満足度）を出してほしい。</li> <li>カダーレ有効活用の点から事業数が少ない。</li> <li>課題解決のためには有効である。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.7</b>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>動員目標がない。目標を決めるためには十分なマーケティングが必要である。</li> <li>収容人数が不足。</li> <li>目標設定が不明瞭である。</li> </ul>	班の評価点  <b>2.7</b>
	公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民全般を対象とした事業が含まれているのでよい。</li> <li>幅広く利用、活用を求めるべきである。</li> <li>市民全体の意向に添った計画が必要である。</li> </ul>	班の評価点  <b>3.3</b>
総 合 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には当初計画を上回った利用を獲得しているが、更なる利用拡大方策が必要である。</li> </ul>		班の合計点  <b>13.4</b>
			班の評価  <b>B</b>

良かった点、改善点等の提案

良かった点	
改善点	

(12) 社会資本整備総合交付金事業（橋梁新設）

本事業に係る外部評価結果及び委員から出された意見は、以下のとおりである。

事業No.	VI-019	事業名	社会資本整備総合交付金事業（橋梁新設）	
各 項 目 に よ る 評 価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次評価を支持する。</li> <li>・内部評価は妥当である。</li> <li>・旧由利橋は、建設から長期間が経過しており、劣化も進んでいた ので、必要性は大きい。</li> </ul>	班の評価点	4.0
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観の観点からは、高く評価できる。</li> <li>・市民に向けての説明、PR不足で誤解が生じている。</li> <li>・二次評価は妥当である。</li> <li>・交通の割に費用をかけすぎている。もっと安く出来る方法があっ たのではないか。区画整理事業等を含めて、旧市の市街区域に費 用をかけすぎである。</li> </ul>	班の評価点	3.5
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に向けての説明、PR不足で誤解が生じている。</li> <li>・周辺の景観形成と結びついておらず、投資全体に対する効率性に やや難がある。</li> <li>・耐震基準（震度6まで耐えられる）が未公開である。</li> <li>・二次評価は妥当である。</li> <li>・費用についての検討をもっと細かくするべきである。</li> </ul>	班の評価点	3.3
	公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字ブロックがない。安心安全への配慮が足りない。目の不自由 な人への対策が不十分である。</li> <li>・内部評価は妥当である。</li> </ul>	班の評価点	3.0
総 合 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな費用をかけて出来上がった橋の、より有効な活用を期待する。</li> </ul>		班の合計点	13.8
			班の評価	B

良かった点、改善点等の提案

良 か っ た 点	
改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁技術の説明が多過ぎて、評価に係る肝心の説明が少なかった。</li> <li>・石脇側の道路の拡幅をするべきである。</li> <li>・交通インフラ、公共施設の計画時には、障がい者団体の参画が必須である。</li> </ul>

### Ⅲ 総括及び提言

本章では、各委員から提案された意見等をまとめたものを記載している。

#### 1. 平成25年度外部評価作業を実施した所感

前回の評価における内部評価では12事業中5事業がB評価とC評価だった。今年度は12事業全てがA評価である。一次評価は担当部署が行うので多少甘くなるのは仕方ない面もあるが、総合評価ではもっと客観的な視点で厳しく評価してほしいと思う。内部評価は市役所の目線に立った評価の仕方で行われていると感じた。特に国庫支出が多い事業は十分な検討が行われていないと感じた。補助金につられて事業を実施し、一般財源を使用していないことから自己満足に終わっている面が多く見られる。市職員の人件費もかかっているのだから、これも含め費用対効果を十分検討しながら必要な事業は何かをはっきり見分けて取り組むべきである。さらに補助事業だと予算を全て消化しようと考えがちである。国のお金も元は市民の税金で賄われていることをよく考えてもらいたい。また数値目標の設定がないまま事業に取りかかっているものが多い。事前にきちんとした数値目標を定めて事業に取り組み、事後の分析もしっかりやってほしい。ばらまきとを感じる事業が様々ある。市町合併後9年目に入ったのだから、事業の継続が必要だとしても交付基準等を見直し、真に効果の上がる事業に予算をつけるよう改善すべきである。

地域おこし協力隊は、県内の大きな市で設置しているのは大館市と由利本荘市くらいではないか。小規模な自治体でこそ効果がある事業だと思う。一定の効果を上げているものの、本来の目的である交流人口の拡大と特産品の振興、販路拡大にはほど遠い。継続するのであれば人数を絞って矢島、鳥海地域に集中して配置し、由利高原鉄道や観光協会と一緒にもっと都会の人を呼ぶツアーや農家民宿、首都圏での移動直売等に力を入れるべきだと思う。（鎌田委員）

感じていたことは殆どほかの委員の方が代弁していただいた。初めは何のために外部評価をするのかと思ったが、とても良い勉強をさせていただいたと感じている。また評価がきちんと今後の事業のあり方や市政に反映されているだろうかと思った。それがこの度市議会議員に立候補した理由の一つである。貴重な意見、提言なのだから改善すべき点は改善しなければならないし、評価されるべきは評価されなくてはならないと思う。良いものは良いものとして前向きに進めるべきだと思う。ここで学んだことを今後の活動にも活かしたいと思う。（吉田委員）

どんな事業でも目標を定めて、目標に対する達成度を評価の対象にするべきだと思う。この度評価した事業には目標の設定がないため、どのぐらい成功し



たのかが分からない。達成度も評価項目にいられていただきたいと思います。（伊藤委員）

事業によっては内容が専門的なので、資料の説明内容をもう少し理解しやすいようにしてほしい。また評価に際して、事業効果の根拠を具体的な数値にして説明を頂きたかったと思った。

行政では多様な市民ニーズに応えようとあれこれ事業を展開するものの、事業一つ一つの効果を判断する基準が明確でない中で、「あれもやりました。これもやりました。」という事業を実施した事実だけで終わっているように感じた。もっと評価基準をしっかりとさせて、効果のあるものには投資をし、無いものは早めに他の事業に転換する方式に変えていかないと、漫然と続けていくだけのものになってしまうしこれではいけないと思う。（佐藤委員）

大変難しい評価委員会であったと思う。事業に対する内部評価が妥当かどうかを評価すればよいのかとも思ったが、必然的に事業の内容そのものについてどうだったのかということに繋がっていく。事業そのものは担当部署があって、市議会があってきちんと遂行される仕組みであると思う。外部評価委員会ですれのどこを評価したらいいものか、大変難しいと感じた。（細矢委員）

長い時間議論できてよかった。いろいろ行政に関わる委員会では、僅かな議論でまとめに入ることもあるが、外部評価委員会では深いところまで議論できたと思う。内部評価と外部評価でかなり異なる評価が出されたが、その発生要因は三つ考えられる。一つ目は客観的に見て内部評価は甘くて評価性が低いという点である。これについては外部評価委員会からシグナルを発することができたため、外部評価を行った意義があると考ええる。二つ目は行政側が短時間で説明しきれなかった。一般市民である外部評価委員に理解させる難しさがあったと思うが、より誤解の生じない説明が必要だと思う。これは行政側の問題である。三つ目は外部評価委員が説明を受けても間違っ理解して、間違っ評価をしてしまうという我々評価委員側の問題である。二つ目、三つ目は双方が努力しないと評価委員会の効率性が良くなならないと思った。（山口副委員長）

内部評価は自画自賛になりがちである。総合評価のメンバーを工夫してみるのも一つの方法かと思う。また内部評価を行った職員が外部評価結果をどう見るだろうか、外部評価報告書が今後の事業のあり方を考える上で活用されてほしいと思う。（松田委員）

評価することに関しては市職員も外部評価委員も素人である。そんな中で事業を評価するのはどうかという気がする。終わった事業を評価するのではなく、事業を行う前にどうすべきかを考える方が重要なのではないかと思う。できれば事前に市民に相談をするほうが有効ではないかと思う。（田口委員）

分からないことも多かったが、とても勉強になった。行政の縦割りについて強く感じた。他課との連携や他機関と連携する仕組みが必要だと思った。一つの課の能力や発想には限界があると思う。企業でもコラボレーションによる新しい製品づくりを行っているように、連携により異なる視点や意見を取り込むことができればより良い結果が生まれることもあるだろうし、他のいろいろなものに繋げていくことができると思う。各課の課長の上に位置する方から、広い視点で物事を取り上げて横断的な取組みをしてもらえたら良いと思った。

普段テレビやラジオを視聴していると、全国で地域の活性化に取り組んでいるところが沢山あり、その手法を紹介している。大変参考になることもあるが、市職員や関係団体の皆さんは知っているだろうかと思う。参考にさせていただきたいと思う。由利本荘市に売り込む物がないなら、人を呼びこむために場所を提供するという方法もあると思う。どこかの町では役場庁舎の近くに大学の研究施設が造られたと聞いたことがある。大企業の誘致も必要だが、それ以外の呼び込みというのも良いことだと思った。またこの頃キャンピングカーや車中泊で旅をするのが流行っていると聞いたが、そういった旅行者向けの滞在スペースの提供など既存の手法によらない方法がいろいろあると思う。

また市が行う事業の受益者が一部に限られるような場合、市の投資分を後から回収するという考え方も必要ではないかと思う。あるいは事業を行おうとする人に市が支援して、後から回収することはできないだろうか。本来は銀行の役割かもしれないが行政で救うべき対象もあると思う。人口が減少し景気も良くないが、住民同士が助け合う雰囲気がほしい。例えばある商店が廃業せざるを得なくなったとき、後継者となり得る人がいないか呼びかけたり、マネジメントのノウハウや救援策を提供したり、お店の開業を考えている人には空きスペースや空き店舗を紹介する等の相談窓口があったらいいと思う。情報を求めている人に必要な情報を提供できる仕組みがあれば、一人で困っている人を助けられるし、活用されずにあるものが活用されることによって街の賑わいに繋がることもあると思う。将来人口減少と過疎化が進んだとき、由利本荘市は残っているだろうかと思うことがあり、ここに住む者として不安を感じている。自立して単独でも生き残っていける社会作りをしていく覚悟が必要だと思う。真剣に何十年後を見据えてやっていかなければならないという焦りを感じている。行政も市民も一緒になって頑張っていく雰囲気を作っていきたいと思う。

(成田委員)

一番感じているのは、市の縦割り行政を改善して欲しいということである。縦割りを解消するためには、行政の仕事に“横串”を刺して欲しいと思う。地域おこし課の職員も観光のことを考えるし、観光文化振興課の職員も町内会のことを考えるとといった仕組みを作らないといけない。その仕組みができればそこから新しい動きが出てくると思う。それができなければ、いつまで経っても縦割りのままで「それは私の担当外である」といった答えしかできない。それでは決して良い方向に進まない。担当する事業の実施にあたって、他課が実施

する支援や助成、交付金についても提案や紹介ができれば事業効果はもっと高まると思う。

それから蛇足かもしれないが、先日羽越線を利用した際、売店で新潟の酒を売っているのを見つけた。それには塩が附属していて、「海水から作った白いダイヤです」と表記してあった。塩をなめながら酒を飲むのは、昔食べ物が無い時代に行われていた飲み方である。それを逆手にとって「白いダイヤ」と称してお酒と一緒に販売している。これは新潟の方の知恵である。これを見つけたとき、秋田はなんて知恵が無いのだろうと思った。由利本荘市にも美味しい食べ物や見所もあるのに、どうして上手にPRできないのかと強く感じた。やはりみんなが知恵を出さないと生き残れない。問題があったら知恵を出し合うことを心がけていただきたい。（谷内委員長）

## 2. 行政評価システム等について改善・工夫が必要な事柄

事業を評価するにあたり、はじめに何について評価するのかを良く説明し、委員はそれを理解する必要があると感じた。国療跡地利活用事業の評価では、計画を策定する過程が適切であったかを評価するべきところを、計画全体の内容についての議論になってしまうことがあった。事務局からその点の説明があったのだが、どうしても議論がそちらに流れてしまうときがあった。（山口副委員長）

合計点数を小数第一位まで示すことで、A～Dの4段階であってもCに近いBだとか、Bに近いCだといったことが読み取れるので、評価基準表はこのままでよいと思う。（伊藤委員）

伊藤委員が評価を行っての感想の際に述べられたが、目標に対する「達成度」の評価項目が必要だと思った。（谷内委員長）

内部評価に使用した資料は外部評価委員にも全て配布してほしいと思った。（成田委員）

平成 25 年度  
由利本荘市行政評価外部評価実施報告書  
平成 25 年 10 月作成

由利本荘市行政改革推進課  
〒015-8501 由利本荘市尾崎 17 番地  
電 話 0184-24-6381、6382、6383  
F A X 0184-24-3226  
e-mail gyokaku@city.yurihonjo.akita.jp

編集担当

総務部次長兼行政改革推進課長	阿部秀夫
行政改革推進課行政改革班長	小松康宏
行政改革推進課主席主査	加藤弘貴